

酪農学園のめざす姿

学校法人 酪農学園

〒069-8501 北海道江別市文京台緑町582番地
TEL : 011-386-1111(代表)

アクションプラン 2015

目次

アクションプランの推進について	1
Ⅰ 酪農学園のミッション	2
Ⅱ 酪農学園のビジョン	2
Ⅲ ビジョンを具現化するための施策	3
Ⅳ アクションプラン	
教育	4
研究	6
社会連携	8
国際化	10
キャンパス環境	12
財務	14
組織運営	16

アクションプランの推進について

酪農学園創立80周年を契機に、「酪農学園のめざす姿 ― 創立100年に向けて ―」を策定し、合わせて、その実現のために、PDCAサイクルによる「酪農学園のめざす姿 アクションプラン2014」をこの1年実施してきました。

アクションプラン2014の進捗状況は、教育・研究・社会連携・国際化・キャンパス環境・財務・組織運営の7カテゴリーに、93課題、198の取組内容が提示され、この1年間PDCAサイクルを回していくことができ、14の取組内容が終了し、アクションプラン2015では184の取組を実施していくこととしています。

また、2014年度に受審した公益財団法人日本高等教育評価機構の大学機関別認証評価において、『「酪農学園のめざす姿 ― 創立100年に向けて ―」を策定し、使命・目的等を明確にし、「三愛精神」を基調として、「健土健民」「実学教育」「循環農法」という標語で簡潔に使命・目的を示し、アクションプランの策定と併行して、客観的に自己点検・評価が行われ、教育・研究をはじめ大学運営の改善・向上につながるPDCAサイクル機能が整えられている』と評されています。

PDCAサイクルが機能する組織であるためには、幾つかの条件が必要であり、この条件が満たされたときに初めて、PDCAサイクルは効果的に機能します。

第1条件は、所属する組織の発展、あるいは存在価値が高まることを目的にPDCAサイクルを考える。

第2条件は、計画において次の4項目を策定できる組織であること。①組織として何を達成すべきかという目標を策定できる。②目標を達成するために具体的に何をすべきか行動目標を定める。③目標の成果を何によって測定するか評価指標を策定できる。④評価を行う際の基準となる評価基準を策定できる。

第3条件は、実行において各自の行動が目標の達成に資することを常に確認・実感することができるように、目標に対して共通認識を持ち、計画の遂行にあたる組織であること。

第4条件は、計画において策定された評価指標と評価基準に従って評価を行う組織であること。

第5条件は、評価結果や前回の目標、社会状況などのデータや事実に基づいて、改善が連続性のある形で次の計画として策定されていく組織であること。

このような条件が整っている組織を「PDCAサイクルが効果的に機能する組織」ということができることとなりますが、PDCAサイクルは計画・実行・評価・改善の繰り返しであり、未来に向かって進むものです。

アクションプラン2015をさらに深化させ、酪農学園の将来の方向性を確実なものとしていきたいと考えます。

I 酪農学園のミッション

「三愛精神」・「健土健民」

－建学の精神の本質－

酪農学園は、1933年に北海道酪農義塾として開設し、キリスト教の精神を基にした神を愛し、人を愛し、土を愛する三愛精神と実学教育により人格の完成を目指し、健土健民思想を体得した自営農業者をはじめ多くの有能な人材を送り出し、社会の発展に大きく貢献してきました。

21世紀の世界は、人口の増加、気候変動など環境変化、資源の枯渇、土壌の流亡、生物多様性の喪失などの問題が深刻化し、食料の持続的で安定した確保が大きな課題となっています。

本学園は、この時代の転換期に教育改革を積極的に進め、農業を基盤とした人間教育を中心とする建学の精神の更なる具現化を使命とします。

そのために、実学教育を基本とする「農・食・環境・生命」の教育を通じて明日を切り拓く「力」を育て、地域と世界の継続的な発展に貢献する人材を送り出します。

II 酪農学園のビジョン

明日を切り拓く「力」を育てる教育研究の実現

－自ら探究し実践する人材を育成するフィールド－

建学の精神に基づき、学園に集う皆が地域の発展と世界の平和に貢献する有為な人材となるよう努めます。

地域から世界まで広いフィールドで活躍できる「力」を育てる教育研究を実践します。

- 1 地域と世界を繋ぐ人材育成の拠点とします。
- 2 多様なフィールドに役立つ強い「知」の創造拠点とします。
- 3 異文化が交わる共生社会のネットワーク拠点とします。
- 4 個性が輝くライフワーク拠点とします。
- 5 継続的発展のために、たゆまぬ改革に取り組みます。

III ビジョンを具現化するための施策



教育

地域と世界を繋ぐ人材教育
世界のフィールドへ羽ばたき、地域の中核となる人材育成

研究

地域と世界のフィールドに貢献できる研究推進
優れた研究成果を教育に反映

社会連携

地域のリーダーとなる人材の輩出
健康で豊かな暮らしの実現

国際化

フィールドは地球と捉え、
教育・研究・社会連携を地球規模で推進
「知」を中心としたネットワークの創造

キャンパス環境

広大な野幌原始林と農地・緑地が
織り成す景観を大切にする
快適に過ごしながら交流する「街」創り

財務

安定した財務基盤を維持
将来投資を循環して行う財務構造の構築

組織運営

教育研究を機動的に推進できる組織
すべての教職員が熱意を持って働ける環境整備

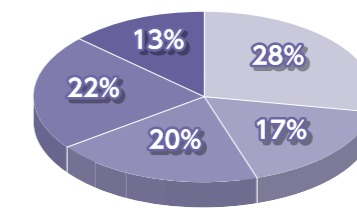
IV アクションプラン

1 教育

目標

- 1 強い「知」に裏付けられた専門教育を創り、提供します。
- 2 実学教育を通して、主体的な学修能力を育てます。
- 3 社会人として必要な「力」を養成します。
- 4 ICTを活用した教育の基盤整備を行います。
- 5 地域・文化・世代を超えて多様な人が学び合う教育環境を整備します。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
1 教育戦略の明示	1-1 アドミッション・カリキュラム・ディプロマポリシーの検証	1 教育基本方針とビジョンとの適合性の検証 2 学士力(卒業生の身につける力)の設定と検証方式						
	1-2 学士課程・修士課程・博士課程の位置付けの検討	3 学類・コースの検証 4 大学院改革の基本政策および学士課程教育との接続の検討						
	1-3 高校教育改革の検証	5 高校コース設定と学校組織の検証 6 高校コース毎の教育内容の検証 7 高校通信制課程の検証 8 高校組織毎の取組内容・体制の検証						
2 教育内容・方法の充実	2-1 カリキュラム評価と改善、教育コンテンツの開発、ファカルティ・ディベロップメントの推進	9 カリキュラム構成・履修者数・シラバスの検証 10 授業における動画・デジタル教材等の整備 11 教育目的を達成するためのFDの検証 12 参加型臨床実習や共用試験等の国際基準に対応する教育制度の整備						
	2-2 点検評価と質保証に向けた取組	13 入学前教育・基盤教育・専門教育の検証 14 成績評価基準・進級認定・卒業認定の検証 15 自己点検評価および認証評価における改善項目の推進						
	2-3 基盤教育・キャリア教育の充実	16 実習内容・時期・担当教員数の検証 17 基盤教育科目の履修者数と教室利用の検証 18 キャリア教育の検証 19 インターンシップモデルの検証						
	2-4 自ら学ぶ力を養成する教育方法の導入	20 e-ラーニング・アクティブラーニング等による教育方法の検証・開発						
	2-5 農業者養成・アントレプレナー教育の充実	21 実践的教育プログラムの開発						
	2-6 英語による授業の導入検討	22 導入目的・方法の検討およびモデル授業の開発						
	3-1 奨学金制度の検証	23 奨学金支給の基準設定と制度の開発						
3 学生支援の充実	3-2 障がいを抱えた学生に対する支援	24 身体・精神面で障がいを抱えた学生に対する体制の検証 25 保健管理センター設置の検討						
	3-3 課外活動の充実	26 課外活動の活性化						
	3-4 就職支援の充実	27 「酪農ジャーナル」クライアント企業を活用した就職支援						
	4-1 大学院教育振興施策要綱・大学院設置基準改正への検証と対応	28 施策要綱および設置基準の改正時の検証						
4 大学院教育の抜本的充実	4-2 学群改組に対応した研究科・専攻の再編検討	29 大学院全般の改組の検討						
	4-3 修士・博士課程修了者の社会進出支援	30 キャリアサポート・企業等のネットワークづくり・進路開拓の推進						
	4-4 大学院生への奨学・奨励制度の充実	31 TA・RA制度の検証・拡充および指導・教育体制の構築 32 診療補助に関わる大学院生の奨学金制度の設立						
	5-1 大学院における職業人教育の構築	33 大学院での社会人教育の取組項目の設定 34 教職免許制度改革に対応した教職課程・教職コースの検討						
5 職業人教育・社会人向け教育の推進	5-2 社会人を対象とした高度職業人教育の推進	35 リカレント教育の開発						
	6 酪農学園にふさわしい学生生徒の獲得	6-1 入試広報体制の充実	36 アドミッションポリシーの重点項目の検討 37 入試制度の整理・充実(第二期学力試験の廃止) 38 専願層獲得増加に向けた取組					
6-2 高大一貫教育の推進		39 高校の入学者確保に向けた取組と体制の検証						
		40 高校のコースと大学の学群・学類・コースとの接続の検証						
		41 高大一貫教育を推進する組織・機能の具体化						
		42 高大一貫教育の充実に向けた各コース科目内容の開発と展開						

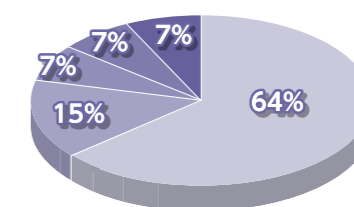
IV アクションプラン

2 研究

目標

- 1 教育に連結する強い「知」を目指し、研究レベルの維持・向上を図ります。
- 2 農・食・環境・生命が連携し、有機的に組織された研究プロジェクトを推進します。
- 3 地域のニーズを捉え、研究成果を地域に還元できる研究を推進します。
- 4 世界に貢献する特色のある研究を実施します。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
1 自主的・自発的研究の支援	1-1 研究推進コーディネート機能に関する支援体制の検討	1 研究コーディネート推進セクションの確立						
		2 受託企業との連携窓口の構築						
		3 応募先の拡大とノウハウの構築						
	1-2 学園独自のガイドラインによる資金調達	4 酪農ジャーナルのネットワークを利用した各企業の研究開発のニーズ発掘と営業活動	研究支援課					
1-3 研究の点検・評価機能の構築	5 事業規模・研究テーマ・事業期間等ガイドラインの項目設定	研究支援課						
	6 研究費への反映方法の検証	学務課						
	7 研究に関する点検評価方法の検討	学務課						
1-4 若手研究者を育成する支援体制の充実	8 留学制度・研究時間の確保・研究費補助制度の検証	学務課						
2 附属施設の活用による研究・教育体系の確立	2-1 附属施設を活用した研究教育活動の推進	9 フィールド教育研究センターの機能確立と研究教育活用の施設整備	フィールド教育研究センター					
		10 教育病院としての機能強化	附属病院					
		11 大型医療機器等の更新および新規購入	附属病院					
	2-2 研究成果を地域に還元する研究組織の設立	12 附属家畜病院の名称変更の検討	附属病院					
13 農業環境情報センター・野生動物医学センター等の活動状況の検証と新規設立の検討		学務課						
14 地域ニーズを把握した研究目標の設定		研究支援課						
3 公正で透明性の高い研究環境の構築	3-1 研究費の不正防止対策を確立	15 不正防止対象となる事項の検証	管財課					
		16 規程整備と積極的な啓発活動の推進	研究支援課					
3-2 行動規範の作成	17 内部監査体制の整備	17 内部監査体制の整備	内部監査室					
		18 研究推進に照らした行動基準の整備	研究支援課					
4 研究成果の社会還元	4-1 研究成果の集積・分析に基づく知的財産の管理・活用・発信	19 学術研究コレクション・教員総覧システム等の充実と公開	図書館					
		4-2 大学発ベンチャー支援メニューの充実	研究支援課					
5 産学連携研究の変革	5-1 産学連携研究支援体制の整備強化	21 研究支援機能の組織的整備	研究支援課					
		22 連携シーズの検証	研究支援課					
	5-2 産学官の人的交流の促進	23 人的交流ニーズの検討と支援機能の整備	研究支援課					
		24 地域の課題・ニーズの把握と連携方法の検討	研究支援課					
	5-3 地域ネットワークを生かした研究プロジェクトの推進	25 学園と地域のネットワークの現状を検証	研究支援課					

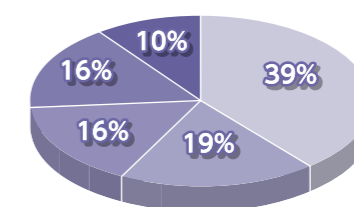
IV アクションプラン

3 社会連携

目標

- 1 地域や産業のニーズを把握し、実践的フィールドワークによる組織的な教育研究活動を通して地域や産業の活性化に努めます。
- 2 環境保全と共生社会の実現に努めます。
- 3 未来を担う子どもたちへの学習の場を提供します。
- 4 生涯学習や地域交流の場を提供します。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
1 教育研究と社会連携	1-1 実学教育を実践するフィールドの確保	1 学外実習・インターンシップ・課外活動・地域ボランティア等のフィールドの確保						
	1-2 地域や産学官との共同研究や人材交流の推進	2 地域交流協定内容の検証と課題・ニーズの把握 3 学生生徒を交えた地域ボランティアの推進						
	1-3 連携体制の整備	4 教育研究活動の成果を一元的に普及する組織の検討						
2 学園シーズの積極的発信	2-1 情報媒体の活用による国内外への発信力の強化	5 研究活動やEXC活動の整理・発信						
		6 学外からの視察対応メニューの検討						
		7 公式サイトの整備						
	2-2 建学の精神の普及	8 学園の広報戦略の立案・推進						
		9 酪農ジャーナルを通じた建学の精神の普及推進						
		10 酪農ジャーナル韓国版・ロシア版発刊の可能性検討と実行						
2-3 公開講座やリカレント教育の拡充	11 環境憲章の普及推進							
	12 地域連携によるリカレント教育の検討							
	13 東京・名古屋・大阪での公開講座の継続的開催と内容の充実							
3 世代を繋ぐ社会連携の推進	3-1 学園施設やキャンパスの提供	14 イベント開催・学校行事のための施設提供						
		15 図書館の市民への開放の推進						
	3-2 教育支援プログラムの開発と提供	16 図書館の附属高校生への開放推進・近隣高校生への開放の検討						
		17 教育支援プログラムの企画推進						
4 学園ネットワークの活用	4-1 卒業生等のネットワーク化による連携強化(世代間の知の継承)	18 小・中・高に応じた出前授業の内容開発と実施						
		19 同窓会連合会の組織統合(酪農学園同窓会)						
		20 会則に基づく12地区72支部設置の推進						
		21 同窓会学外サイトの構築とSNSを利用したネットワークづくり						
		22 同窓会公式サイトを利用した不明者情報の共有						
		23 業種別組織(緑風会・酪小獣等)の組織拡大と連携の強化						
		24 開業獣医師(主に卒業生以外)との連携強化						
		25 EXC・後援会・同窓会等の連携による生涯学習講座の創設						
	4-2 地域・行政・産業界との連携推進	26 高校の協力関係団体との連携強化						
		27 地域拠点型農学エクステンションセンターの検討						
		28 地域交流協定の推進						

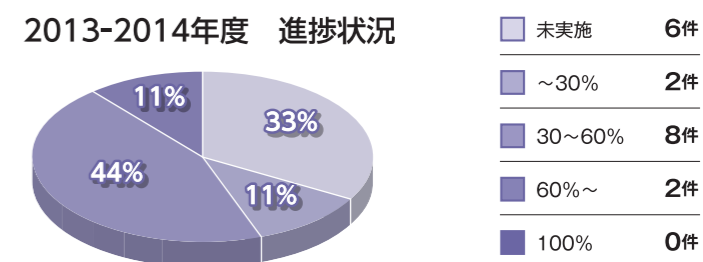
IV アクションプラン

4 国際化

目標

- 1 世界の各地域で中核となる国際人を育成します。
- 2 途上国・新興国への留学生派遣と受け入れに取り組みます。
- 3 国際的交流のネットワーク拠点を整備します。
- 4 国際化に備えた教育システムを整備します。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
1 国際的プレゼンスの向上	1-1 戦略的国際ネットワーク構築のための長期構想の策定	1 長期構想の策定と拠点交流校の設定						
	1-2 世界の大学・研究機関との連携の強化	2 拠点協定校との推進項目の設定 3 学術交流協定の妥当性・継続性を検証するための項目設定						
	1-3 アジア地域との信頼関係を構築する人的ネットワークの強化	4 研究者間交流・交換留学生の重点地域の設定						
2 留学生等派遣・受入促進のための環境整備	2-1 派遣・受入のためのプログラムの開発	5 語学・習慣・文化・オリエンテーションの各プログラムの開発						
	2-2 質の高い教育研究体制の構築	6 留学生受入に関する研究内容・施設の整備状況の検証 7 交流を高めるための機能やスペースのあり方の検討						
	2-3 派遣・受入の数値目標の設定	8 地域別留学生数・交流種別研究員数の目標値の設定 9 協定校との交流目標設定による選定						
	2-4 奨学金獲得のための支援体制の整備	10 国内外財団・都道府県等の奨学金制度の紹介機能の検討						
3 国際化に備えた教育システム等の整備	3-1 国際基準に向けた教育制度の整備	11 科目ナンバリング等の新たな教育整備項目の調査・検討						
4 国際化に対応した環境整備	4-1 キャンパス整備	12 英語でのサイン・バリアフリー・留学生会館等の課題の整理						
	4-2 外国語での教育研究成果の発信	13 英語での成果公表の義務化の検討 14 学園コンテンツを英文で紹介						
	4-3 国際化に対応した事務体制の構築	15 事務職の語学研修 16 事務職の留学研修 17 事務機能の調査・整備						

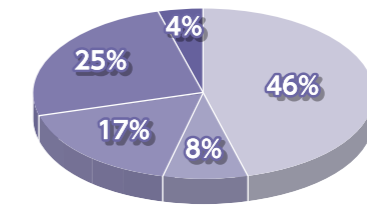
IV アクションプラン

5 キャンパス環境

目標

- 1 多様な教育に対応する学修環境と、フィールド教育を始めとする教育研究環境を整備します。
- 2 学園に集う人々が主体的に交流するゆとりある空間を配置し、キャンパスライフの充実を図ります。
- 3 学園に集う人々にとって安全・安心なキャンパス造りを行います。
- 4 緑豊かな農地や緑地を保全し、環境に優しいキャンパスの実現に努めます。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
1 教育研究を支える多様な機能を備えたキャンパスの整備	1-1 実学教育を推進するフィールドの整備	1 圃場活動の実態調査と学外フィールドを含めた活用の検証						
		2 地域交流協定を拡充した実習フィールドの確保						
	1-2 学生生徒が快適に過ごせる学修・厚生施設の整備	3 厚生施設(学生会館等)の整備	学生課					
		4 高校生・大学生の男子寮の整備	施設課					
		5 学生の憩いの場としてローン・広場の維持管理	施設課					
		6 授業の予習・復習ができる場(環境)の整備	教育センター					
		7 障がいを抱えた学生に適した教育施設等の整備	教育センター					
	1-3 教育研究活動のニーズに応じたスペースの集約と配分	8 戦略研究拠点のスペース確保に向けた教員室・研究室の規格化・集約・整備の検討	教育センター					
		9 多様な授業法に適した教室の整備に向けた検討	教育センター					
		10 実験室の使用に関する検証	教育センター					
	1-4 建学の精神の具現化を促す整備	11 酪農学園の建学の精神を継承する施設の検討	戦略本部					
		12 建物外壁・構内案内板等に聖句の検討	施設課					
	1-5 学術的展示機能の整備	13 博物館の機能を備えた展示スペースの検討	教育センター					
2 安全・安心で環境に配慮したキャンパスの実現	2-1 防犯と災害に強いキャンパスの整備	14 災害発生時の避難者を想定した備蓄や自家発電整備の検討	施設課					
		15 設備等を固定する等の耐震対策の実施	施設課					
	2-2 歩行者に安全な交通環境の整備	16 歩道やロードヒーティングの整備	施設課					
		17 外灯・防犯カメラ・道路標識の設置	施設課					
	2-3 ユニバーサルデザインによる整備	18 ユニバーサルデザインに沿った施設整備	施設課					
2-4 環境に配慮したエコキャンパスの整備	19 省エネ設備・太陽光等の再生可能エネルギー利用の検討	施設課						
3 情報システムの整備	3-1 総合情報システムの整備	20 利用しやすい情報システム(UNIPA等)の検証・整備	教育センター					
		21 ICカードを使った施設管理の検討	施設課					
	3-2 情報システムを活用した業務の効率化	22 情報システムの整備による業務効率化の検討	情報システム課					
	3-3 PC教室等の集約	23 PC教室とサーバ室の一元管理(低階層)の検討	情報システム課				(2017以降)	

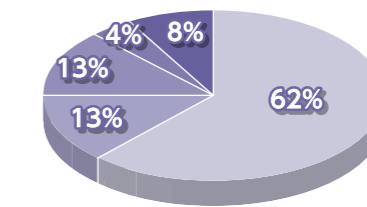
IV アクションプラン

6 財務

目標

- 1 将来へ向けた投資を恒常的に行うための基盤として、帰属収支差額プラスを確保します。
- 2 健全な財務構造を維持するため、投資は自己資金を中心にを行います。
- 3 奨学金制度を整え、必要な財源を確保します。
- 4 学納金収入の他、寄付金・補助金・事業収入等を計画的に確保します。
- 5 業務の効率化による節減と、透明性の高い執行管理により、教育への投資効果を高めます。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度	
			上期	下期	上期	下期	上期	下期
1 中長期的な多様性と総合性を備えた財務戦略の構築	1-1 中長期の目標設定と財務ローリングによる評価	1 経営戦略に基づく中長期の投資計画・資金計画の策定						
		2 中期試算および財務評価による検証						
		3 高校の財務状況改善に向けた検証						
	1-2 選択と集中による事業計画の策定・実施	4 現状把握のため懸案項目の明確化						
		5 事業計画および実施評価の様式の開発						
		6 中期目標と年度予算の整合の検証						
2 基金の確立	2-1 教育研究目的型基金制度の導入	7 基本金を含めた基金目的の設定および執行ルールの決定						(2017以降)
	2-2 経済的支援および留学生支援のための奨学金の創設	8 財源の確保方法の検討および規程の整備						(2017以降)
	2-3 基金形成に向けた寄附金募集体制の整備と活動の推進	9 後援会等との連携や私学事業団の有効活用および寄付金規程の整備						(2017以降)
3 多様な収入財源の確保	3-1 補助金制度の活用	10 経常費補助金制度を活用するための組織の検証						
		11 受託研究・研究助成・科学研究費補助金獲得のための支援						
		12 特許取得支援の充実						
	3-2 外部資金獲得支援の充実	13 外部資金獲得に必要な研究シーズの整備						
		14 製造製品の販売の検討						
		15 代理店業務の請負の検討						
3-3 学園のシーズを生かした事業会社の設立検討	16 研究成果を事業化する仕組の検討							
	17 光熱水費・消耗品・旅費の検証・数値管理による節減目標の設定							
	18 動機付けや啓発活動の実施							
4 透明性の高い執行管理の整備	4-1 業務の見直しと節減目標の設定・実施	19 内部監査の充実・業務分掌の検証による見直し・内部牽制の強化						(2017以降)
		20 指導管理体制の整備とマニュアルの検討・作成						(2017以降)
	4-2 不正経理防止システムの確立	21 事業報告書・決算書・IR情報の公開内容・方法の検討						
		22 情報公開による信頼性の確保						

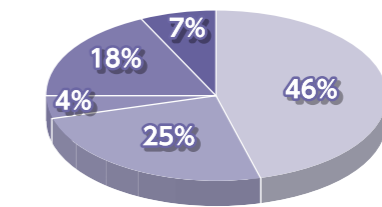
IV アクションプラン

7 組織運営

目標

- 1 学園全体の職務権限と責務を明確に設定し、迅速に実行する組織運営を行います。
- 2 学長・校長が強いリーダーシップを発揮できる環境を整えます。
- 3 恒常的に自己点検評価と第三者評価を行い、計画・実行・検証・改善により、常に組織体制を見直します。
- 4 国際的視野を備え、情報化社会に対応するための能力開発を行うとともに、中長期の人事計画を策定します。
- 5 自ら、責任・やりがい・信頼をもって行動できる組織体制を整備します。

2013-2014年度 進捗状況



課題	取組内容	推進担当	2014年度		2015年度		2016年度		
			上期	下期	上期	下期	上期	下期	
1 学園経営の組織機能の強化	1-1 学園組織の事務体制の一本化	1 職務権限に関する規程の検証 2 事務組織の機能と分掌の検証							
	1-2 学長補佐機能の検討	3 学長補佐機能の検証と配置の検討							
	1-3 教育運営組織の統廃合と機能集約による簡素化	4 協議項目の整理による委員会の統廃合の検討 5 教育組織の明確化とガバナンスの検証および規程整理 6 教育センターの実質化							
	1-4 危機管理体制の強化	7 リスク項目の把握とマネジメント機能の検証 8 災害発生時に備えた連絡網の整備							
	1-5 監査体制の強化	9 内部監査室を核とする三様監査体制の構築							
	2 点検評価に基づく組織運営	2-1 短期・中長期の目標設定による組織機能の向上	10 組織運営の懸案項目の把握と検証 11 教育改善に関する目標設定と実行スケジュールの作成						
		2-2 自己点検評価や第三者評価および学生評価の組織的活用	12 各部署の事業毎のPlan・Do・Check・Actionサイクルの実施						
		3 教職員の評価・育成	3-1 教職員の計画的採用と人事制度の開発	13 定期的な新卒・中途・嘱託・契約の各種採用制度の検証 14 定期的な教員の資格審査(分野・職位)の検証 15 役職定年制・降格制度・早期退職制度の検討 16 出向制度の検討 17 人員計画と人事制度の検証					
	3-2 自己啓発の機会や能力開発を体系化した研修制度の整備		18 職員の能力開発・キャリア形成に向けた研修方法・内容の検討 19 人事交流制度の検討						
3-3 専門性を備えた職員の育成・確保と活用	20 国際業務・情報業務・農事等の専門性を伴う能力開発の実施 21 教育の総合相談・キャリア教育相談が可能な人材の確保・配置								
3-4 教職員評価制度の開発・実施	22 目標管理等の評価制度の実施に向けた検討 23 人事異動および昇給・昇格等の評価制度の活用検討								
4 職場環境の整備	4-1 男女共同参画の実施状況の検証・改善		24 育児休暇・介護休暇制度の検証 25 男女共同参画の業務推進の啓発						
	4-2 ハラスメント防止対策の検証・改善		26 ハラスメント防止の啓発活動の実施 27 公益通報・相談窓口の検証						
	4-3 理事会・設置校・教職員・学生生徒間の意見交換の実施		28 意見交換の定期的実施						